

高島素之 たかしまの 評論家、社會學者。明治十九年一月四日、群馬縣生乳
昭和二年十一月、千二百枚（八六一―九二六）。筆名M・Y。同志社神學
校中退。明治四十一年「東北評論」發刊、筆禍で下獄。四十四年堺村
彦の實又社に加はる。大正八年遠藤無水等と雑誌「國家社會主義」創
刊。國家社會主義運動の理論的指導者。

譯著書、ヤーサー・リエウス著「社會主義社會學」(譯、大正九年六
月十五日(二田書房))、最近「社會學の進歩」(合著・尾子止編、大正九
年九月)二十日(大日本學術協會)、ワタルクス全集「資本論」(譯、第

一卷第二冊・大正九年十一月十日、第二冊・十年二月二十日、第二卷
第一冊・五月二十日、第二冊・十一月二十日、第二冊・十一年四
月二十日(大鐘閣)、幻滅者の社會觀」(大正十一年六月)二十日(大

鐘閣)、ツガン・バラノズスキ著「唯物史觀の改造」(譯、大正十
三年十一月十五日新潮社「社會哲學新學說大系」)、社會問題辭典」
(大正十四年六月十五日新潮社)、社會進化思想講話」(大正十四

年七月十八日(アテネ書院)、マルブオン・スモール著「社會學思想の
人生的價值」(譯、大正十四年九月十日新潮社「社會哲學新學說大
系」)、ワタルクスの餘剩價值説」(大正十四年九月二十日(專業之日

本社出版部「社會・經濟思想叢書」)、マルクス著「資本論」全四冊
(譯、第一卷・大正十四年十月二十日、第二卷・十五年一月二十五
日、第二卷上・六月五日、第二卷下・十月十五日新潮社)、ポール・

ラフオルグ著「財産の進化」(譯、大正十四年十一月二十日新潮社
「社會哲學新學說大系」)、ワタルクス「一講」(大正十五年二月十
七日新潮社「思想・文藝講演叢書」)、ワタルクス「思想叢書」全六冊

- (編、大正十五年九月二十一日―昭和二年十一月一日新潮社)、
『さき語る』(大正十五年十一月六日人文會出版部「日本エッセイ集
書」)、『マルキシズムと國家主義』(昭和二年四月十五日改造社)、
『マルクス著作集・Ⅰ―哲學の窮乏』(譯、昭和二年十月二十五日新
潮社)、『論・愁・談』(昭和二年十一月十八日人文會出版部)、『マ
ルクス學解説』(昭和二年八月二十日改造社)、『批判マルクス主義』
(小栗慶太郎編、昭和四年九月十二日日本評論社)、『英雄崇拜と春
板心理』(同、昭和五年十一月十五日忠誠堂)等。
文獻、茂木實任編著『急進的愛國主義』(高田素之先生の思想と人物)
(再版、昭和五年九月十五日津久井書店)等。